



ぎふの木ネット協議会 メルマガ

お知らせ イベント情報
を発信します

板蔵ファクトリー株式会社 代表取締役
吉田 香央里さんからの
メッセージ



世界に挑む国産木材の至宝

1. 木材であって「材木」でない「銘木」

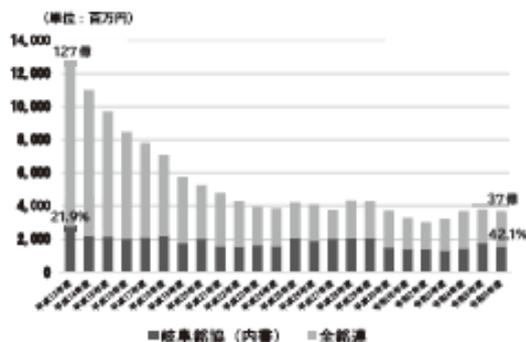
1.1 日本独自の文化、銘木

銘木とは、所謂材木ではない。社寺建築の大黒柱から茶室の床框、高級内装に至るまで、その木目を意匠として空間に格別の存在感を与える、日本建築文化の精神性を象徴する木材である。「銘木」は英語の直訳が存在しない日本固有の言葉であり、大昔から現在に至るまで、素材、加工方法、職人、業況などすべてが建築用材木と連動しない。材木は主にm3単価で取引されるが、銘木は杣と呼ばれる木目の美しさにより一品一葉の単価で取引され、同じ樹種・大きさでも400倍も価格が違う場合もある。海外では木目に関わらず形状と容積で価格が決まるのが一般的だ。

本稿では、この日本固有の銘木と銘木業界における課題や新たな取り組み、さらには海外を含めた今後の展望等について述べる。



1.2 「競り上がる」、日本一の銘木市場



全国銘木連合会の統計によれば、平成13年度に127億円あった銘木取扱高は令和6年度には37億円へと縮小した。全国各地にあった銘木市場も減少し、現在は9市場となっている。その中で岐阜銘木協同組合(岐阜銘協)は、シェアを21.9%から42.1%へと拡大、取扱高日本一となった。目利きの後継者の育成、優良な丸太や製材品の集荷力、交通アクセスの良さ等が理由だろう。

銘木市場の根幹は市売にある。原木市と製品市が競り方式で毎月開催され、全国から数百名の業者が集う。岐阜銘協は「現代稀に見る競り上がる市」と言われる盛況ぶりだ。競り中に数秒で購入判断をしなければならない、やり直しも返品もNGの、プロの商売だ。



1.3 日本は世界の銘木流通先進国



銘木資源の観点では、日本は質の高い資源量が多い。幅広い緯度差と土地の高低差により気候の種類が多く、樹種数や固有種が多い。また古来よりの森林信仰の影響からか大径木が多いと言われる。

流通の観点では、珠玉の銘木が一同に介し、厳格で公正な競りで入手できる銘木市場は世界的にも珍しい。海外の銘木業者からは「極めてOrganizedでJapan的だ」という高評価を得た。岐阜銘協では数年前からアジアの材

木業者が継続的に仕入れに利用し始め、多い時では売上の2割弱が外国向けという場合もある。

1.4 日本のメジャーな広葉樹

日本で一番多く産出する広葉樹は、橙系色で太くハッキリした木目が特徴の「ケヤキ」。物価も違う数十年前から取引単価が下落している安価な広葉樹だが、「玉杓」と呼ばれる稀少木目が良い具合に出ればどんな樹種よりも高価になる。

現在日本で一番人気ある広葉樹は、白い木地にシルクのような輝く木目が特徴の「枹」だ。原木競りでは毎回高値更新をするので、荷主は全国の奥深い森から良材を探し岐阜に運び、それがまた各地から買主を呼び込むという好循環が生まれている。



2. 銘木業界の課題

2.1 課題

銘木と言えば数百種の樹種があり、価格相場は時によって、材によってピンキリである。製品として完成するまで自然乾燥期間が長期必要であり、製材も加工も工程の殆どが手仕事だ。熟練技術を要する上に、長物や変形物、重量物が多く施工も人海戦術である。



また銘木はすべてがカスタムオーダー形式なので素材以外にもコストがかかる。銘木業界の課題はズバリ「全てが分かりにくい」事である。後継者不足や職人技術の継承問題も深刻化している。背景には工業建材の台頭による銘木需要の低迷、マーケティングの不十分さ、販売機会と購入窓口の少なさがあるように思う。しかし、新たに銘木に触れる人の感動や顧客満足を見ると、他の何物とも似つかない産業としての成長余地が確実にある。

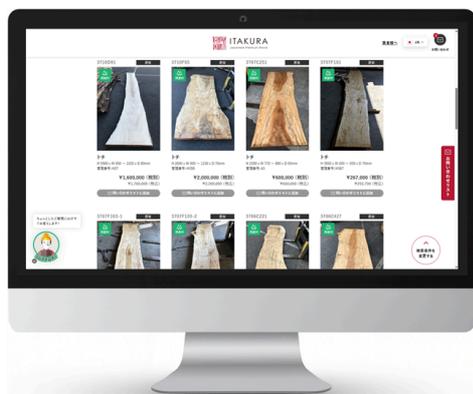
3. 銘木業界の挑戦

3.1 銘木は究極の差別化商品

業界の「クローズドマーケット」ぶりに衝撃を受けた私は、丸太を仕入れる段階から完成品に仕上げて施工する段階まで全て取組む、全国的にも珍しい銘木専門の造作工場を立上げた。元・銘木の素人として、銘木の「分かりにくい」部分を極力クリアにし「分かりやすく」見せることに軸を置いた。8年間稼働してみて、銘木は世界に売って出られる素材であると認識し、デジタル化・ブランド化・国際化による新しい展望を描いている。



① 銘木の明朗会計化



一つ目の挑戦は、時価ともブラックボックスとも言われる銘木の価格情報開示だ。銘木は自然乾燥中の反り割れが材木に比べ比較できないほど多く、仕入れ価格の10分の1以下で処分する場合もある。よって状態良く乾燥した材は必然的に高く取引され、銘木=時価形式がスタンダードとされてきた。

しかし高価で段取りも面倒な上に価格も不明ではそもそも使う気が起こらないと考え、新たに自社在庫は全てWEB上に写真とともに価格情報を掲載し、誰もが見られる検索システムとして整備した。当初は反発も多く受けたが、高級

な銘木だけでなく使いやすいお値打ち材も品揃えした事で、「銘木って意外と敷居が高くない」という反響を得た。木材のプロからのBtoB販売も増え、サイトの多言語化によって海外の採用事例も出てきた。

② 無垢材の欠点を克服

二つ目の挑戦は、無垢の欠点の低減だ。特に一枚板程大きい無垢ならではの、納品後に起こる反り割れリスクという最大の困りごとをいかに解決するかがポイントである。長年の工経験から、含水率数値が同じでも自然乾燥期間が長い方が、短い場合よりもトラブルが明らかに少ない。肌感覚的には絶対的な違い

があるため、弊社は原則2～5年という超長期自然乾燥期間を設けるようになった。



それでも反りが発生する板への対策に、特に海外木材業者から感心されたのが、日本独自の「高周波プレス」加工だ。電気と熱と圧力で無垢材の内部水分量を平準化させながら木質繊維も真っ直ぐに整える機械加工技術である。1枚の加工に高周波プレス1時間、冷却プレス4時間、その後最低1週間養生するという手間がかかるが、反りや曲がりほぼ綺麗に直る。

銘木分野はこうあるべきという研究も規格もなく、乾燥法は企業の独自ノウハウに依存している。弊社は数々の痛い目に合った経験から学び、現在は5種類の乾燥手法を板の状態や樹種により使い分けている。



③ 「日本のものづくり」への昇華



素材として扱いづらい銘木は、それを加工する熟練の職人技と切っても切れない関係にある。そこで三つ目の挑戦は、日本の誇る銘木素材を、銘木加工技術と合わせて「日本のものづくり」として提案する事だ。材木にない銘木の魅力の一つは「エモーショナルな価値」だ。木の目を読みながらいくつもの種類の鑿や鉋を駆使し繊細な手加工を施す。壮大な時間をかけて育てるこの技術と唯一無二に極ま素材こそが、先達から脈々と継承してきた日本の文化であり、人の心の琴線に触れ

る不思議な力を持つ。オープンファクトリーによるものづくりの工程を見せる事が誘因になり、一昔前は無垢NGであった大規模施設などの設計案件に採用される例が増えた。またここ数年、海外物件への輸出案件も増えた。タイパ、コスパと対極にあるこのエモーショナルな価値を、日本のものづくりとして提案し、世界に挑みたい。



4. おわりに

銘木業界の未来は、伝統的な市売の継続と、新しい挑戦の両立にある。岐阜銘協の市売もグローバル化を意識し、マーケットインの発想で銘木業者と協業し

市場開放日を設けたり、オンライン発信をしたりと変革に踏み出した。島国日本で育ってきた銘木産業。その目利きと知見と実績は、世界をリードするレベルにあり、日本固有の言葉である銘木を世界へMeibokuとして発信できる限りないポテンシャルを秘めている。最高の木質素材と最高の木工技術の結実とも言える銘木文化の、古き良きを伝承し、新しきを創造するため、私たちは日々研鑽をし続ける。

ぎふの木ネット 協議会より

会員様のイベント情報を募集します。

オープンハウスなどのイベントの予定がある場合は、事務局にお知らせください。
タイミングが合えば、ぜひ取材に行かせていただきたいと思います。
取材した内容はサイト上にてご紹介させていただきます。
ご紹介サイトは[こちら](#)

ぎふの木ネット協議会のコンセプト動画

現在YouTubeに投稿されているぎふの木ネットのPVです。
ご希望の方はデータをお渡しいたします。
是非ご覧ください↓

<https://youtu.be/zSxiJVZPN2w?si=wRgBXMHmDF4naxWz>



だから次は あなたの番だ

ぎふの木ネットコンセプトブックのご案内



この冊子には、ぎふの木ネットがどういった活動をしているか、また木材の良さやメリットなどの情報が盛りだくさんです。お施主様に配布できる場面があればぜひご活用ください。

お施主様等に配布をご希望の場合は、事務局までご連絡ください。
コンセプトブックは[こちらから](#)



5/15～6/3岐阜木遊館展示イベント

【開催概要】

日時：2026年5月15日(金)～6月3日(水)

会場：岐阜木遊館

パンフレットを展示したい企業様は、10部まで展示可能です。

ご希望の企業様はヤマガタヤ産業本社までお持ち込みください。



7/23ぎふの木ネット特別フォーラム

【開催概要】

日時：2026年7月23日(木)

会場：長良川国際会議場 大会議室

12/3ぎふの木ネット年末フォーラム

【開催概要】

日時：2026年12月3日(木)

会場：岐阜グランドホテル



7/28 岐阜木遊館ワークショップ

【開催概要】

日時：7月28日(火)

会場：岐阜木遊館

木材についての市況



米材

カナダでは、米国の木材需要の低調に加え関税問題もあり、販売低迷・不採算となり各製材工場の減産・操業停止が続いており、国内における原木在庫は極めて低調。米国は、年末ホリデーシーズンが明けカナダの減産もあり、木材市況はタイト感が出てきて引き続き価格の上昇がみられる。米国の船積み必要量は順調に伐採され、中国向けの船積みも再開している。米マツIS級並の対日輸出価格(推定)は前月同様の\$970/千SC。ランダムレングス紙発表の15種平均価格は2月4日現在433\$/Mと1月初めに比べ12.5%の上昇。

欧州材

第1四半期交渉が終了したが、値段調整に応じられるシッパーは少なく契約数量は50~60%にとどまる。ユーロ価格は下がったものの円安部分を補えず、円建てコストは上昇。産地サイドの採算は更に悪化し、日本向け供給量も絞られる。欧州WWはコストアップにより敬遠されており、スギ羽柄材も供給量が増えず、仕方なくWWに回帰する動きもあるが輸入コストには及ばない。輸入・国内集成材ともコストは80,000円/m³を超え、ジリ高傾向は続く。欧州製品供給量がさらに減った場合2026年度の住宅需要にもよるが、一時的な供給不足となる懸念あり。東京木材埠頭の12月製品入荷は11千m³と前月並み。出荷は14千m³と前月比同と堅調。在庫は39千m³と減少。しばらく減少局面が続く。

北洋材

産地は1月中旬に大寒波により伐採が2週間ほど中断したが、その後は平年並みで推移。日本向け生産は引合い不足のため減少。中国の引合いは低水準。ウズベキスタン等の国内需要は低調。アカマツ原板のオファーは少なく、価格も\$400/m³以上の提示もあることから、購入するか悩みどころ。完成品は\$490~520/m³と先月と同様。国内の有力製材メーカーを除き原板の入荷は少なく、高値原板の影響でメーカーは利益につなげていない。受注の引き合いも弱い。12月の製品入荷(東京+川崎)は7.1千m³と減少が続く。出荷は13.2千m³と実需がやや持ち直す。在庫は44.5千m³と減少が続くが、依然として高水準を維持している。特定のサプライヤー及び商社による在庫の安値放出が顕在化し、他の商社も価格調整を進めている。

東海地区新設住宅着工統計

2025年12月	総数	前年比	一昨年比	持家	前年比	一昨年比
愛知	4,335	90.1%	102.6%	1,305	105.9%	108.7%
岐阜	650	98.2%	102.4%	328	89.4%	91.1%
三重	576	109.9%	80.0%	354	106.0%	101.7%
静岡	1,456	139.1%	96.3%	755	117.1%	118.3%
東海四県計	7,017	99.6%	98.9%	2,742	106.4%	107.7%
名古屋	1,934	87.0%	118.4%	264	112.3%	122.2%

【ひとこと】

2025年12月の新設住宅着工は、分譲住宅が増加したが、持家、貸家が減少したため、全体で前年同月比1.3%の減少となりました。

新設住宅着工数は62,118戸です。

利用関係別で見ますと、持家98.2%、貸家96.6%、分譲住宅101.9%（うち分譲マンション102.5%、分譲戸建101.2%）です。

また、東海四県（愛知、岐阜、三重、静岡）では
総数99.6%、持家106.4%、貸家99.2%、分譲住宅94.8%
（うち分譲マンション70.8%、分譲戸建110.4%）です。



正しく表示されない場合は[こちら](#)

このメールは、ぎふの木ネットからのメール配信をご希望された方に送信しております。今後も引き続きメールの受信を希望される方は[こちらをクリック](#)してください。今後メールの受信をご希望されない方は、こちらから[配信停止手続き](#)が行えます。

本メールは yamagataya_s_info@ymg-s.co.jp よりinfo@aigen.biz 宛に送信しております。
みやまち ヤマガタヤ産業内, 羽島郡岐南町, 岐阜県 501-6019, Japan

✓**認証購読停止** [配信停止](#) | [登録情報更新](#)